

家事技術（衣類の手入れ）の知識習得と情報源  
花王 ○松島みさお お茶女大人間文化 海妻徑子

目的 家庭科の履修が家事技術の習得にどれだけ寄与しているか、そもそも家事技術はいかなる情報源からどのような情報として伝えられて人々に習得されているのか、今後の家事技術習得のためには何が必要とされているのか等を明らかにするため、今回は家事技術のうち「衣類の手入れ」に関する技術を取り上げ、アンケート調査を試みた。

方法 家事技術の遂行状況、知識保有状況、情報源について、首都圏30km圏居住の60歳未満の男女900人に対し、郵送留置自記入式によるアンケート調査を実施した。調査対象者は、住民票より系統二段抽出方法で抽出した。調査期間は1993年11月1日から30日、有効回収数は243人、有効回収率は27%であった。

結果 衣類の手入れに関する知識の正解率と、家庭科教育の履修経験との相関関係は特にみられなかった。知識の情報源としても、「衣類や洗剤類の表示」を挙げる回答者が、「家庭科教育」を挙げる回答者よりも多い傾向がみられた。さらに、衣類の手入れに関する知識を「だれもが身につけるべき」と認識することと衣類の手入れに関する知識の正解率には正の相関関係がみられた。

以上の結果より、これからの家庭科教育への提言の一つとして、メーカーやマスコミの情報提供手法等を参考に、より効果的な情報提供の手法を新たに模索することがある。例えば雑誌8誌の内容分析の結果、30歳代以降の女性雑誌には具体的で親近感のある衣類の手入れについての言及が、20歳代男性雑誌には性別役割規範にとらわれない論調の言及がみられた。これらの言及等も参考に新たな情報提供の手法の開拓が求められよう。